

会者に多大の感銘と示唆を与え、生きた参考事例としてただちに各PTAに取り入れられるものと思われる。貴重な研究報告は印刷して「福島県のPTA」（第2集）を作成し、県下小・中学校PTAに配布したので、今後のPTA活動の推進に大きく貢献するものとする。

5 PTA実態調査

(1) 目的

PTAの現状とその問題点をは握して改善の方向を見だし、時代の進展に即応するPTAの望ましいあり方をもとめる。

(2) 主催

福島県教育委員会

(3) 調査の対象

県下小・中・高等学校PTA 928団体

(4) 調査の内容

- ① 会員構成
- ② 規約に定められている会長の任期と子女の在学の有無、校長の立場
- ③ 会員の教養を高めるための成人教育活動
- ④ 校外生活指導ならびに地域の環境改善活動
- ⑤ 組織・運営・活動上の問題点

(5) 調査の方法

PTA研究委員により調査項目を作成し、調査票を印刷配布して実態調査を行なった。結果を集計して現状を明らかにし、検討を加えた。

(6) 研究委員

福島大学教育学部教授	平井 博
同	古旗 安好
郡山女子大学短期大学部講師	長谷川寿郎
福島市社会教育委員	今井 豊蔵
福島県PTA連絡協議会長	鈴木千代松
福島県高等学校PTA連合会副会長	渡辺 正市
福島市立福島第一小学校長	沼崎 忠蔵
福島市立福島第一中学校長	西沢 長吉
福島県立川俣高等学校長	中川 幸意
福島県教育庁総務課調査係長	茂木 利夫
同 高等学校教育課主幹	山内 正弥
福島県教育研究所指導主事	佐藤 伝
福島県教育庁社会教育課長	大越源三郎
同 主幹	原田 貞
同課員および教育事務所社会教育主事	

(7) 調査の結果

PTA研究委員会を開催して現状を分析し、調査結果について詳しく検討を行ない改善の方向をまとめた。これは報告書「福島県のPTA」（第3集）として印刷し県下小・中・高等学校PTAに配布したので、今後のPTA活動にとって生きた参考資料になるものと思われる。

6 東北地区国際理解婦人セミナー

(1) 趣 旨

最近国際交流がさかんになり、世界各国の生活・文化・教育等について理解し協力しあう機会が多くなったが、必

ずしも国際理解に関する正しい認識が普及されているとはいえない現状である。

そこで、婦人の当面する日常の問題を中心に、外国の婦人たちと実情について話し合い、意見を交換しあうことにより、広い視野にたつて生活を高める態度を養うとともに、国際理解への関心を深め、地域における国際理解活動の振興をはかる。

(2) 期日・会場・参加者数

7月1日 全体会 福島市公会堂	} 567名
分科会 福島市中央公民館	
7月2日 全体会 福島市公会堂	1,267名

(3) 主催

福島県教育委員会・福島市教育委員会・仙台アメリカ文化センター・福島県婦人団体連合会・福島市婦人団体連合会

(4) 講師および演題

国際社会発展における婦人の役割
前米労働省婦人局長 エスター・ピーターソン
婦人の地位の向上
婦人少年局婦人課長 森山 真弓
世界の中の日本と婦人の役割
リーダーズ・ダイジェスト編集局顧問 相馬 雪香

(5) 分科会パネル登壇講師

外人講師 8名 県内講師 8名 計16名

(6) 状 況

在住外人ならびに東北六県からの参加者により活発な話し合いが行なわれた。特に3講師の講演は感銘深く、国際理解に対する関心も高まり、所期の目的を達したと思われる。

7 婦人団体指導者研修会

(1) 趣 旨

現在の社会の変ぼうの中で、婦人団体のもつ役割を検討し、健全な運営と活動の助長をはかるとともに、婦人の資質の向上をはかり、婦人教育の振興に資する。

(2) 期日・会場・参加者数

昭和44年8月5・6・7日 国立磐梯青年の家 100名

(3) 内容および方法

- ① 研究課題
「地域社会の進展や婦人生活の変化に対応し、今日の課題に即する婦人団体活動の内容と方法はどうか」
- ② 講演・講義
社会の変化と婦人生活、婦人団体の種類・特質・および歴史、団体の組織と運営のあり方・集会のもち方・話し合いのし方
- ③ 研究部会 4部会
協議題 婦人団体の現状と今後の活動について
- ④ 全体会 分科会報告 全体討議
- ⑤ レクリエーション 歌と室内ゲーム

(4) 効 果

各種団体のリーダー対象の研修会であるが、終始真剣に相互理解の深まるうちに終了した。参加者も予定どおり出